世界かんがい施設遺産

たけべいせき

建部井堰

［岡山県・岡山市］

Takebe Weir

～現存する日本最大の
農業用石造取水堰～

■岡山県の三大河川の一つ、一級河川旭川の中流に位置する建部井堰は、全長650ｍ。堰本体のうち約500ｍは旭川にほぼ並行し、全面にわたって石組みがなされている。導水路側は整形された巨石が一列に並んでいるが、途中から旭川の本流に向かってなだらかに傾斜し、端部は石を円弧状に長く巻いて組み合わせることにより、断面を丸くした巻石構造となっている。一方、先端部の約100ｍは巨石による捨石構造で、川の中央に向かって大きく湾曲している。

■旭川の中央が備前国と対岸の美作国との国境であったことから、川を横断して堰き止めることはできなかった。そのため隣国と結節しない、川の中央で途切れた「片持ち式」の斜め堰となっており、このような極めて珍しい形態が建部井堰の特徴である。

全景(2本の土砂吐が見える)

井堰上部の雑草・土砂を撤去し全容を確認
(平成24年撮影:土木学会中国支部提供)

■築造年代や誰によって築かれたかは明らかになっていないが、岡山藩の史料から1721年には既に存在していたことが確認できる。また学識者によると受益の村々の石高が急増した1628年から1630年の頃に築造されたのではないかともいわれている。

■建部井堰は300年以上もの間、7㎞に及ぶ幹線用水路により100haを超える建部平野の水田を安定的に潤し、今もなお供用中である。

全国で築造されたこの時代の大規模な取水堰の多くは、コンクリートの固定堰もしくは鉄筋コンクリートの可動堰に改修・改築され、当時の面影を無くしたが、その中で建部井堰は地域の人々の強い意志によってセメントによる補修を最小限に留めており、当時の姿を遺している堰である。

流れに逆らわず越流を考慮

緻密に組まれた石組み

井堰から伸びる幹線用水路と石の掛樋(昭和初期)

問い合わせ先　岡山市北区役所 建部支所　TEL. 086-722-1111